



復活！野湯めぐり 1番おバカなのは？



鬼首 荒湯地獄 と小柴山

鈴木

【2012年3月3日～4日】

【メンバー】佐貫（L）鈴木 古野 手嶋 田辺 坂村、前田（奈）
遠藤（わらじの仲間） 渕上（わらじの仲間）

復活が望まれていた「おバカ山行」が蘇った。そこに集まったのは、いずれもなるほどと思われる面々だった。何がおバカかといえば、時にはスキーを使ってわざわざ野湯（やとう＝施設のない温泉）に入りに行く。かつて、トマの風史上最高のおバカ度だった、ダイヤモンドダスト舞う中での「銅粉の湯」入浴等いくつか経験をしたが、最近はなりをひそめていた。

今回復活させた中心はふたり。「温泉といえば佐貫」といわれるほど温泉好きの佐貫さん。入っていない温泉のことを「ここはみとう（未湯）だ」と表現する。もうひとり、わらじの仲間の温泉好き遠藤さん。初日は山に行く計画だったが、「川渡温泉は6:00から開いているから、朝風呂に入ってから行かない？」とのお尋ねも。リーダーから「中高年が温まった後に寒冷地に行くのは危険」と諭され、「分かりました・・・」と引き下がる場面も。共に何が何でも猫が好きという愛猫家でもある。



あったかあ～い温泉でニッコリ

バカらしさに最初に反応したのは天気だったと言うべきか。目的の古川ICのはるか手前の郡山付近で、吹雪による通行止となり高速を下ろされる。さてどうしたものかと思っていたら、もう一台の車に乗っていた坂村さんが体調不良となった。あまりのおバカぶりに、体が拒否反応を起こしたかメンバーの毒気にあたったか。救急病院で診察後点滴を受け、朝になったらひとり電車で帰宅するという事になった。残りのメンバーは、近い道の

駅を探し出して、仮眠場所とした。

予定が大幅に狂ったことから、初日に軍沢岳へ行くのと翌日の荒湯地獄めぐりを逆にした。除雪された林道を進み荒湯地獄への入り口については午後1時頃になっていた。お目当ての野湯がある手前には、「立ち入り禁止」の看板があり、雪もついていない荒涼とした景色が望める。地獄というなら鬼もいるのだろうか。

沢を下り二俣となった付近に、ブルーシートで囲って暖かいお湯を溜めているところがあった。



ぬるう～い温泉に耐える



こちらをとりあえず女性陣に譲り、左俣を遡上する。ほどなく木とブルーシートで囲われた湯船を発見し男性陣はこちらへ入ることに。冷えた体でもすぐに入れる。という事はぬるい！ 青空と小鳥のさえずりのもと、男4人ビールを飲むが、やはりぬるい。早々にあがって、女性陣の入っている暖かい風呂へ行こうと話が出るが、体がなかなか温まらないので、寒くて出られない。何度か上半身を外気にさらしてから湯船に沈めると、温かみを感じられることを学習する。約30分位入って少しふやけて来たのでやっと「脱出」することが出来た。さあ暖かい風呂へと思っていたら、女性陣がご機嫌でやってきた。

「いいお湯だった！」「湯船の脇の噴気で温泉卵出来たよ！」「あつ、みんな食っちゃった！！」と無慈悲な言葉が続く。鬼は身近にいた・・・。



鬼もニッコリ！？

取られた。会の垣根を超えて、その準備をしてきたことに親近感を感じた。

この日の宿は、自炊温泉宿の阿部旅館。ふたつの違った泉質の温泉が楽しめる。当然のごとく宴会は始まる。飲むほどに酔うほどに、いつの間にかその場に横になる人、桃太郎ソングを歌って踊った人、その記憶にない人達、延々と飲み続けた人と様々。

目が覚めたら畳の上に寝ていた。隣には同じように遠藤さんが寝ていた。ふたりにはお情けの毛布が掛けてあったが、せつかく宿に泊まったのに損したような気持ちになる。

「今日どうしましょう」とリーダーの問いかけがあった。会長は「十分これから予定の軍沢岳に行ける」と本心ともつかない言葉を発しているとき、リーダーは聞こえぬふりをして、サブ案の短いルートである小柴山への変更をトマメールに送信していた。

言い訳のようにして行った感のある、小柴山山スキーだったが、オニコウベスキー場から少し登れば山頂だった。小休止の後、気持ちのいいブナ林の中を、高速を下ろされたときに降った新雪を舞あげながら快適に滑走した。若干1

とりあえず野湯に入ったという事で気を取り直したが、そのまま林道へ向けて直接ラッセルして登る事に。何も風呂に入った後にラッセルしなくともとの声に、「この程度なんでもない」とスイッチが入ってしまったリーダーの越後夫人は、大きな目を輝かせてさっさと行ってしまった。もうどうにもとまらない。もうひとりの温泉達人は風呂から上がってからの姿が粋(?)でにくい。これは一本



気持ちは形から



名、前夜来の影響が残って寡黙になっている者もあり、リーダーの選択の正しさを証明した。

出発後からいろんなアクシデントがありながらも、楽しい旅でした。最近体力の低下と共に、まっとうな山(?)をやっていないような気もするが、幅広く山を楽しんでいると受け止めることにしたい。今さら他のことは出来ないし。

「この道より我を生かす道なし この道を行く」とまとめたら、綺麗すぎるだろうか。

オニコウベスキー場トップ 9:40ー小柴山山頂- 10:05~10:20

ーオニコウベスキー場 10:50



小柴山からの快適なブナ林と新雪